

御茶壺道中最終回

内藤 恭義

御茶壺江戸城到着

猿橋を出立した採茶使一行は、お通壺を護送して八王子に一泊し、いよいよ江戸城入りです。

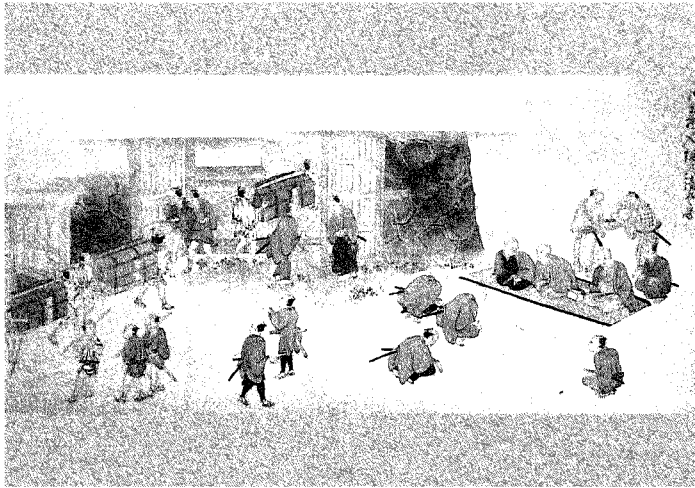
帰着に当って、どのような手続きが行われたか全く不明ですが、『徳川実紀』には、戻った茶壺を上覧した記録が一度だけあります。出発のとき、老中若年寄が見分けているので、おそらく到着のときも同じように見分吟味が行われたとみるべきでしょう。

徒歩頭は將軍に直接拝謁していただきますから、任務遂行の報告があった御茶壺道中は一応完了したことでしょう。

谷村預け壺の再道中

勝山城（城山）で夏を越した御茶壺は、秋を迎えると再び、預け壺受取りに派遣された採茶使によって江戸城へ運ばれて行きました。

その時期は実に様々で、安永十八年の場合は十月五日、慶安二年



宇治御茶壺之巻の内蔵御宝蔵江入組頭請取之図
(国会図書館蔵)

預けられていた茶壺は宇治で調達された新壺であるし、吟味役の茶道衆も必要としないことや、二度目の茶壺道中について『徳川実紀』に出立あるいは帰着をわずかに六回散見するだけです。江戸城へ直送される

お通茶壺の道中より簡単だったと考えられています。

谷村預けの終り

谷村の勝山城（城山）に茶壺を預けておくことが終了したのは、従来、元文三年とされていましたが、交通史料をもとに研究が進んで、元禄二年が最後とされています。

その後は東海道往復となり、茶壺は直接江戸城の富士見櫓に納めることと改められましたが、交通事情により中山道が使われた例もあります。

茶壺道中のやり方は様々に変化しながらも、幕府が崩壊した慶応三年まで続いたのですから、幕府にとって大へんな重要行事であったことが判ります。

谷村の茶蔵

秋元時代の絵図を見ますと、山頂から北側に流れる二つの尾根に御茶蔵の記入が見られますが、いまは跡形もなく、その位置も判然としません。

都留市では『茶壺預かり』という、全国に見られない固有の歴史を少しでも明らかにしようと、推定箇所を数箇所発掘調査しました。その結果、源生尾根から礎石遺構の発掘を見たのですが、煙囪蔵の伝承もあって確定できませんでした。お城山全体の学術発掘を待って位置づける必要がありますので、その日が待たれます。

能力開発講座

○新入社員講座

- 1回目 4月6・7日
- 2回目 4月10・11日
- 3回目 4月13・14日
- 時間 午前9時～午後4時まで
- 定員 各15人 受講料1000円
- 第二種電気工事士筆記試験準備講座
- 日程 4月17・18・20・21・24・25・27・28日
- 5月8・9・10・11・15・16・18・19日の16日間
- 時間 午後6時～8時50分
- 定員 15人 受講料4000円
- 受付期間 各講座とも開講日の7日前まで、定員になれば締め切ります。

問合先 県立都留能力開発センター

☎(43)8911
FAX(43)8912

男女共生を考える 「女性のつとめ」

- 日時 3月14日 午後1時30分～3時30分
- 場所 富士女性センター大研修室
- 内容 日常生活の中で、因習の中で男女共生のために改めたいと思う事は何かなど
- 対象 市内の女性
- 主催 都留市女性問題懇話会
- 問合先 教育委員会 社会教育課

訓練生 受講生募集

- 平成7年度普通職業訓練科生募集
- 募集職種 建築科・配管科・構造物鉄工科・置科
- 訓練期間 各科とも2年間(夜間訓練です)
- 2級建築士講座受講生募集
- 2級建築士受験に必要な専門知識を分かりやすく講義します。
- 申込・問合先 富士吉田職業訓練協会に3月29日までに申し込んでください。
- ☎0555(22)5214

寄付(敬称略)

- 社会福祉のために
- ・まほろば 城之内義昭 五万七〇〇八円
- 保健事業のために
- ・中村錦蔵 十万円

無料交通事故ご相談

- 電話のご相談もお受けします。
- ☎0552(28)8335(直通)
- 相談日 月曜～金曜 午前9時30分～午後4時40分
- 弁護士相談日 毎月第3木曜日 午後1時～4時
- (株)日本損害保険協会甲府自動車保険請求相談センター
- 甲府市丸の内 住友生命山梨ビル3階
- 甲府調査事務所内 ☎0552(28)8810